さとやま

第2号

里山基本計画の策定に向けた
里山活動を考えるワークショップ ニュース

みなさんこんにちは！
夏の猛暑も一段落して、ようやく秋が深まってきました。
９月 20 日に第１回を開催した「里山活動を考えるワークショップ」。
今回は、長久手の里山を見る「現地見学会」を開催しました。
平日の午前中にも関わらず、多くの方に参加していただき、長久手の里山に実際に関わっている方の案内により、現在の里山の状況を見学しました。

現地見学会「長久手の里山の状況を知ろう！」を開催

■日　時：平成 30 年 10 月 16 日（火曜日）10 時から 12 時
■場　所：平成こども塾丸太の家 ⇒ 木望の森 ⇒ 周辺の里山 ⇒ 平成こども塾丸太の家
■参加者：21 名
■プログラム：

① 開会･趣旨説明
・現地見学会のプログラムの説明
② 里山ミニ講座
・丸太の家で、里山アドバイザーの眞弓浩二先生による里山の基本的な知識を学ぶミニ講座
③「木望の森」の見学
・「ながくて里山クラブ」が保全・整備活動を行っている森を見学
④ 周辺の里山の見学
・丸太の家周辺の里山を歩きながら、谷津田などを見学
⑤ 湿地の見学
・「長久手湿地保全の会」の案内により、湿地の生態を見学
⑥ 意見交換
・長久手の里山の現地を見学した感想などについて意見交換

① 開会･趣旨説明

みなさんには、平成こども塾に集合していただきました。
現地へ出かける前に、丸太の家で車座に座っていただき、長久手市みどりの推進課の職員から、「これから里山活動を考えていくにあたり、里山の状況をみなさんと共有したい」という現地見学会の主旨、プログラムを説明させていただきました。

② 里山ミニ講座

全国各地の里山保全活動に関わり、長久手の里山についても熟知している、里山保全アドバイザーの眞弓浩二先生に、里山の基本的な知識を教えていただきました。
眞弓先生に教えていただいたことの一部を紹介します。

○日本は森林大国である。長久手市でも 35%が緑の空間である。
○山林だけではなく、水田、畑、湿地なども含めたワンセットが里山である。人間も里山のひとつの要素である。
○里山は人が管理することにより保全されていく。里山は住む人々のたたずまいを映す鏡である。
○生物多様性にとって里山は大切な空間である。里山を持続的に守り、活用することが大切である。

③「木望の森」の見学

平成こども塾丸太の家の隣は、かつては荒れ果てた山林でしたが、「ながくて里山クラブ」のみなさんによる継続的な保全・管理活動により、「木望の森」の雑木林としてよみがえりつつあります。当日は「ながくて里山クラブ」のみなさんに日頃の活動について紹介していただきながら、雑木林を見学しました。
雑木林の生態を考えて残す植物と切る植物を細かく定めながら、丁寧な活動をされていることに感心させられました。

④ 周辺の里山の見学

中部警察犬訓練所から北東方向の谷筋を歩きながら、谷津田や周囲の雑木林などを見学しました。稲刈が終わりはざ掛けのある水田など、長久手の美しい里山風景を体感できた一方で、イノシシが出没した状況があちらこちらで見られ、獣害の深刻さも感じることができました。

⑤ 湿地の見学

長久手の里山は水が豊富にあり、山の際には湿地が広がっています。雑草の繁茂や外来種の侵入などにより湿地は少なくなる傾向にある中で、「長久手湿地保全の会」のみなさんが日頃から湿地の管理や保全の活動を行っています。当日は「長久手湿地保全の会」のみなさんの案内で、里山の湿地の状況や、湿地に生息している絶滅危惧種である「シラタマホシクサ」について教えていただきながら、見学をしました。

その中で「シラタマホシクサ」は漢字では『白玉星草』と書き、星が散りばめられたように花が咲くことが由来ということも教えていただきました。

⑥ 意見交換

参加者には、里山をじっくり歩くことが初めての方も多く、里山風景の美しさ、イノシシの獣害の深刻さなど、様々な意見が述べられました。

＜見学会後のアンケートの主な意見＞

○それぞれの活動を尊重しながら、連携できるところは協力しあっていきたい。地元との話し合いをしっかりしていくことが大切。

○シラタマホシクサは感動ものでした。長久手にもまだ残っていたとは。イノシシの被害にはビックリでした。西に住んでいるので、今まで実感がなかった。

○とても感動しました。もっと子どもたちや自分たち親世代もこういった活動に参加して、長久手市を知ることが必要であり大切だと思いました。継続して参加していきたいです。

○一人では見ることができない場所を色々教えていただき、長久手の里山の新たな魅力を知ることができました。農を守る環境づくりを実行に移し、トライ＆エラーを重ねて進めてほしいです。

○ながくて里山クラブの皆様のご苦労には頭が下がります。竹やぶを雑木森としてスタートできる状況にしたことは、今後のサンプルになります。イノシシ対策については検討お願いします。シラタマホシクサには驚きました。

○ながくて里山クラブ３年の積み上げを見て、その初期の格別なご苦労を思います。勢いをつけて継続に至るためにも、初期に人・モノ・カネを集中して形をつくる（目に浮かぶように）ことが必要と思います。

○とてもいい体験をさせていただきました。長久手の歴史が理解できたこと、貴重な野花が見られたこと、是非、次世代の子どもたちに伝えていきたいと思いました。イノシシ被害については、テレビで見るような現実をはじめて見ました。

○初めて里山に入りましたが、緑に囲まれ、大変心地良い場所でした。緑をただ残せば良いのではなく、きちんと管理し整備した状態で残すことが大切だと思いました。必要な木を選別するためには専門家の知識が必要です。里山で活躍されている方と協力しながら、教えてもらいながら進めていけたらと思います。猪の問題…深刻さを改めて知りました。

○市内にこのような場所があったのは知らなかった。勉強になりました。保全をしている土地に関する問題点について考えるべき。

○「長久手の魅力は？」「みどり！」と簡単に答えるのが恥ずかしくなりました。イノシシ被害、竹やぶ等々…。「誰かが守ってくれているみどり」ではなく、本当に魅力だと思うなら、自分が少しでも関心を持つ、少しでも保全に関わる、自分事のみどりにしていく努力を行政も市民も重ねることが必要で、そのためには、もっと情報発信が必要だと思いました。竹やぶの後の竹をどうするか。使い道がないというから。竹チップにして散策路に敷く？

○イノシシとの関連と対策は考え方、柵をすることによることへの考え方を聞きたい。

○「電気柵」電池でも猪を防ぐ電気柵が有効であることを学んだ。太陽光パネルでも継続使用が可能とのこと。電気を引けない山里でもできることが学べて良かった。

○普段なかなか立ち入ることができない場所を見学することができて貴重な体験でした。谷津田や湿地のあたりは進入路も狭く、整備の活動を行うのもむずかしそうに感じました。意見交換では話したい人が多いのでもう少し時間を長く設けた方が良いのではないでしょうか。（もしくは話がそれていかないよう、ある程度課題を固める等）

○ながくて里山クラブさんが活動されているところや湿地をはじめて見させていただき、整備、保全にどれほどの手がかかっているかを知ることができました。

○現地を見学することができ、今後ワークショップに参加する上で、大変参考になりました。

○里山、里地、人はワンセットであることを確認。行ってみたい里山、里地から楽しむ、暮らす、活動する里山、里地へバージョンアップしてゆくことが大事。そのため「ネタ」をいろいろ考えましょう。生物の多様性と共に活動の多様性が共栄する地になるといいです。

＜眞弓浩二先生からのコメント＞

長久手の皆さんの熱心な活動や思いにふれ、心強く感じました。やりたい人が集まってやりたい時にやりたいだけ里山活動ができる長久手の街がつくれていけばすばらしい。行政と市民の立場とやるべきことは自ずと異なるところから考えたい。

次回のご案内

◆第２回ワークショップは、10 月 25 日（木曜日）19 時より、平成こども塾丸太の家で、子ども、親子、大人、障がい者などの様々な人にとっての里山での活動などについて考えます！

【お問合わせ先】
長久手市みどりの推進課
電話：0561－56－0552